

もくじ

巻頭	小池邦夫の絵手紙	98
04	小池邦夫講演 自分の花を咲かせよう	96
10	登坂和雄の一語一絵〈狛〉	93
12	特集 目習いつてなんだろう	84
	〈座談会〉「目習いつて何？」	
	「古いものを見るのはどうして？」	
	〈読者投稿〉わたしの目習い	
37	山田喜代春の詩画世界	
38	柳宗悦の眼に学ぶ 白土慎太郎	
40	手紙のヒント 中川 越	
42	essay アーサー・ビナード	
44	絵手紙友の会の40年・あゆみ	
48	〈報告〉第38回絵手紙友の会全国大会in東京	
56	〈募集〉2025年度絵手紙友の会	
58	『月刊絵手紙』バックナンバーガイド	
76	誌上レッスン 絵手紙教室	
	◎小池邦夫からの絵手紙	
	◎兼岩幸恵の小さくても一歩	
	絵手紙と他力	

40周年記念特別号によせて

小池邦夫が日本絵手紙協会を立ち上げてから40年。「筆一本で立つ」との志を胸に18歳で愛媛の松山市から上京。当時瀬戸大橋はかかっておらず、瀬戸内の海を宇高連絡船に乗って岡山へ、そこから列車で東京へと向かいました。大学での挫折、独行の道、人生をかけて挑んだ『季刊銀花』の大仕事……。手紙書きとしての人生で得た仲間が各地で種をまき、い

つしか同志は増え、たくさんの人が絵手紙で自分自身の生き方を見つけていきました。みんなに高い山を目指してほしい、そう考えていた小池自身も一生涯、高みに向かって登り続けました。

小池邦夫が歩んだ絵手紙の道を、これから皆さまがそれぞれに身近な人へ、そして次世代へと繋いでくだされば、こんなに嬉しいことはありません。

2025年夏

一般社団法人 日本絵手紙協会

84	◎阿部祥子のどんどん動いて 「絵や書を速写して学ぶ」	
93	◎通ったのしみ、学ぶワクワク！ 「絵手紙教室 講評拝見」	
96	読者投稿ひろば テーマ「風」 自由絵手紙／活動報告	
98	◎通ったのしみ、学ぶワクワク！ 「絵手紙教室 講評拝見」	
	節氣を感じて「伸びやかな暮らし」 絵手紙ボランティアだより	
	◎日本絵手紙協会からのお知らせ	
94	絵手紙アンバサダー	
100	〈募集〉第2回 公認講師実学講座	
102	〈受講生募集〉講座のご案内	
107	あなたの街の絵手紙情報〈展・体験〉 投稿の募集要項	
110	小池邦夫絵手紙美術館ニュース	
112	栄村国際絵手紙タイムカプセル館だより	
114	日本絵手紙協会・推薦教材	
116	ボランティア部からのお知らせ	
117	日本絵手紙協会へのアクセス	
118	「絵手紙友の会」からのお知らせ／編集後記	
119	『月刊絵手紙』定期購読のご案内	
120	ご注文方法	

40周年記念の
刊行物・グッズのお知らせは
72頁からをご覧ください

新刊本！
小池邦夫講演録
『自分を研ぐ』



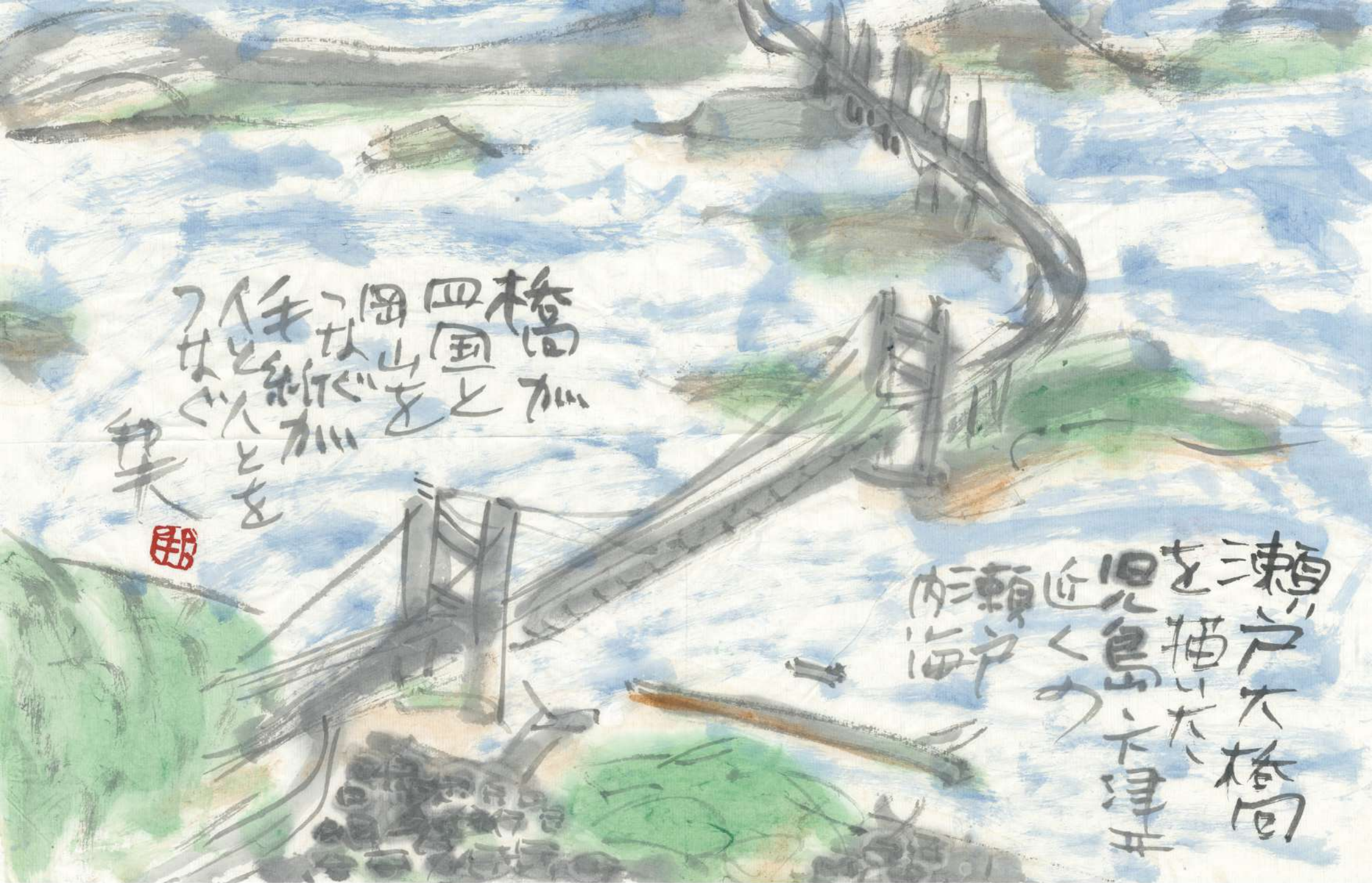
日本絵手紙協会の
公式ホームページ



公式Instagram
etegami_society



公式X(旧Twitter)
@Etegami_Society



特集

目習いって なんだろう

小池邦夫が

いつも皆さんに伝えていた

「目習い」の大切さ。

特に漢時代の古いものが見ていました。

40周年の今、改めて小池の言葉から、

目習いについて考えてみませんか？

目習いとは

—— 小池邦夫

「目習い」とは、見る眼を養うこと。本物を見て、いいものに触れ、感性を豊かにすることです。ときには、古典の書や美術品に触れることも必要でしょう。歴史を乗り越えて生き残っているものには、本物だけがもつ美しさや魅力があります。

「目習い」ということは、技術を学ぶのではなく、その作品が生まれた時代の空気やつくった人の生き方、精神を自分の中に取り込もうとすることです。与えられたお手本を見て練習するのは苦痛ですが、自分が心から感動したものに習いたいと思うのは自然なことであり、また、とても楽しみです。とでもあります。



アトリエで漢時代の俑を手にする小池邦夫



古澤昌代(大阪)

初めて連雲港刻石を見た時は「書」でも「絵」でもない「生物」を見た
思いでした。型にハマらず自由に存在するのに、邪魔する感じがや窮
屈さが無い。個々が生き生きとしてたまたまなく好きです。仕事でも
目の前に置き、家ではテーブルの前に。こまめに突いたような線が
いつかかけることが目標です。「競わず比べず、争わず、皆で仲良く
在る」人としての生き方までも学べると感じています。



齊藤文女(愛知)

「なんだかいなく、こつうのが好き」と
思った素直な気持ちを大切にしています。



道見美紀(新潟)

私の目習いは瓦当から。とても魅力的、文字のデザイ
ン性、みんなアーティストだったんだと思います。

みる
観る
見る

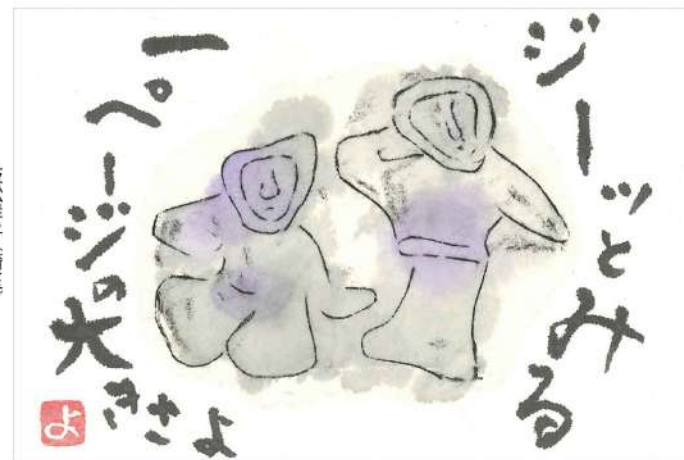
教えて!

わたしの目習い

書道の「手習い」なら知っているけれど「目習い」は絵手紙で初めて聞
いたという人も多いのではないのでしょうか。「絵手紙はかき方ではない、
生き方だ」と小池邦夫が言うように、絵手紙は手先ではなく、人間を全部
出して心でかくもの。そのために小池が勧めたのが目習いでした。みなさ
んの目習いを教えてもらいましょう。



村川尚子(熊本)



枝松祥子(埼玉)

月刊誌の「古拙微笑」は私にとって
大きな学びの二つです。以前師事し
ていた講師から「本物を浴びるよう
に見なさい」と指導を受けました。
月に1度以上は美術館へ行くよう
にしています。

絵手紙教室

月刊誌を使って
好きな時に好きな場所で
学んでいきましょう

小池先生と私、思い出の1枚

小池邦夫からの絵手紙

#12

最終回

この8月に三回忌を迎える小池邦夫。全国各地で絵手紙の種を蒔き続けてきた小池との交流の思い出を、読者投稿より全12回でご紹介してきました。今回で最終回です。

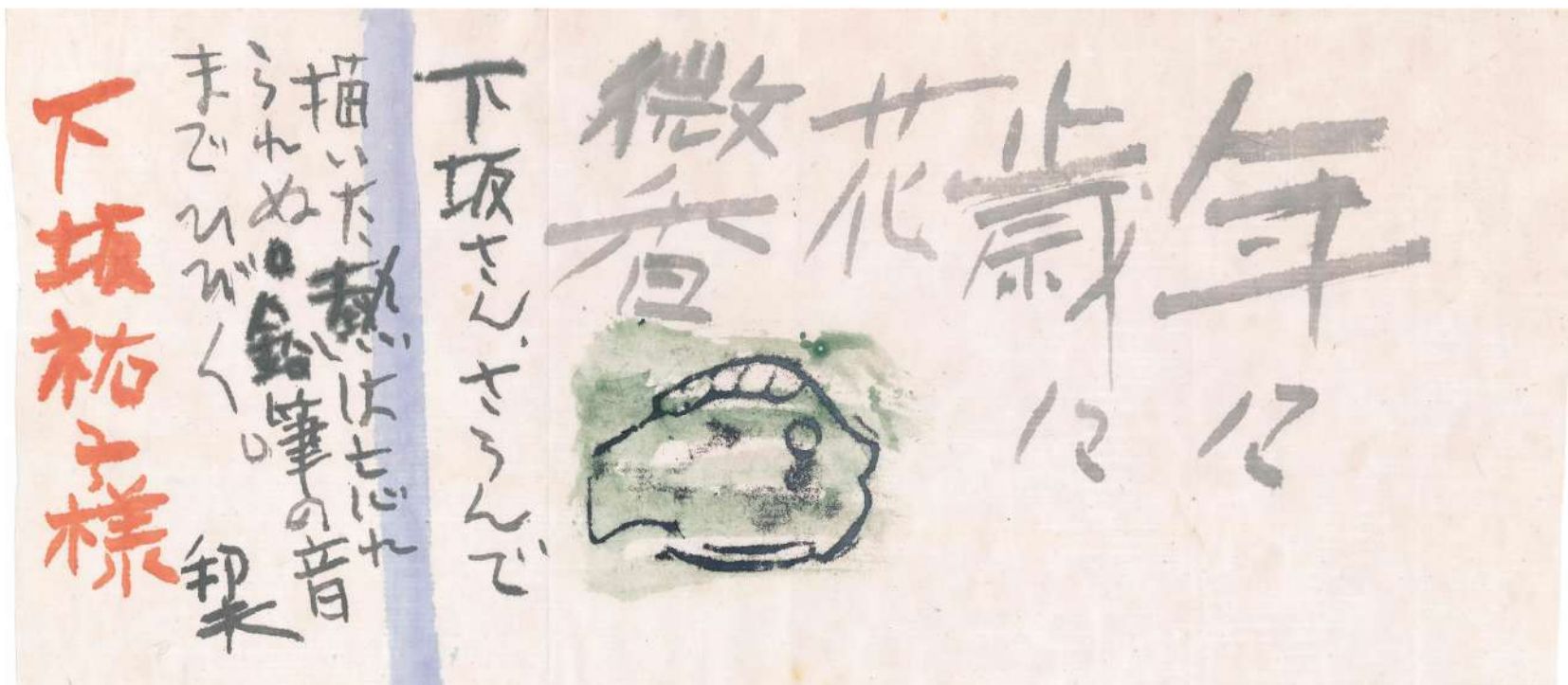
伯江の「絵手紙さろん」にて

——下坂祐子(福岡)

「どうしてもどうしても直接小池先生から話を聞いてみたい」と思いが溢れ、福岡から忍野村の小池邦夫絵手紙美術館まで、30回以上通ったでしょうか。最初はちんぷんかんぷんだったお話や古代のもの。だんだんと良さがわかり集めるようになった備も、初見は「お墓にあったもの？」と怖かったのを懐かしく思い出します。

2011年6月18日にも忍野村での公認講師特別講座に参加。その翌日、仲間二人とオープンしたばかりの「絵手紙さろん」を訪ねました。伯江駅前には「絵手紙発祥の地「伯江」の大きな横断幕や垂れ幕が！バスの中にも絵手紙が飾ってある！と圧倒されている所

に、小池先生が自転車で気さくに迎えに来てくださり、すっかり恐縮。さろんの中はさながら美術館のようでガラスケースには貴重な画像石・埴(は)土(ど)黒陶(くわん)甕(も)まで。壁面いっぱい先生のお若い頃の濃墨の絵手紙。朱墨の龍も、松田正平さんのお軸も……と眺めていると突然「はい、15分間勉強」と先生の声が。田島隆夫さんの絵の速写スタート！ 手汗が出るほど必死で8枚かきました。今でも思い出すとドキドキします。



「絵手紙さろん」を訪れた下坂さんへ宛てた小池邦夫の絵手紙(2011年)



伯江の「絵手紙さろん」にて(2011年)、左から2番目が小池、その右隣が下坂さん、廣松慶子さん(最右)、梶原美千代さん(最左)福岡から何度も講座に参加していたこのメンバーを、小池は親しみをこめて「三人娘」と呼んでいた左・自転車で迎えに来た小池



岸野久美(77歳・埼玉)
庭の八重のドクダミがドレス
アップして楽しそう。



今村優美(福岡)
葉っぱの揺れが風の存在
を教えてくれる。



宮原利佳(熊本)
葉を揺らす風の音、ずっと
聞いている。



菅原貞枝(新潟)
コハンスウの音色。



石本啓子(東京)
雨風に揺れる木をベランダ
から、かいてみました。

読者投稿

かいて、送って、みんなでおしゃべり

ひろば

テーマ「風」

体で心で感じるままに、「風」をつかまえてみましょう。

・自由絵手紙 ・活動報告



東 咲江(埼玉)
風が横切る気持ちよさ。



安部敦子(大阪)



寺西敦子(滋賀)
酷暑の頃は琵琶湖を渡る春風が恋しくなります。
ここ数年は8月9月を生き延びることに懸命です。